

(1) 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、学習の楽しさと友情の大切さを知り、
真理と平和の意味を自覚した実践力のある人間の育成をめざす。

(2) 努力目標 [強く、正しく、明るく生きる生徒]

めざす 中学生像	健康で、誇りを持って自分 分をコントロールできる 中学生	自らが考え、学ぶ喜びを 知り、豊かな学力を身に つけた中学生	互いの個性を認め合い 共に生きる中学生
生徒の 目 標	健康で礼儀正しい生徒	進んで学習する生徒	楽しい学校をみんなでつ くる生徒
生徒の 活 動	<ul style="list-style-type: none"> * 忍耐力をつける。 * 自己の健康管理に努める。 * 服装、頭髪などを整える。 * ごみの落ちていない学校にする。 * 明るく適切な言葉づかいやあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 授業のルールを守り進んで学習する。 * 家庭学習を自ら計画し実行する。 * 常に探求する心を持ち続ける。 * 「確かな力」をつける。 * 学び合いを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 人に対して、思いやりのある優しい気持ちで接する。 * 人の意見を尊重する。 * 取り組みの過程を大切にする。 * いろいろな活動に積極的に参加する。 * 人の立場を理解し、互いに助け合う。
教師の 活 動	<p>基本的な生活態度の育成に 努める</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実態の把握に努め、健康の自己管理能力を高めるようにする。 * 自主的にあいさつをする習慣を身につけさせる。 	<p>わかる授業を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学力の定着が難しい生徒に重点をおくとともに、一人ひとりを生かす授業の工夫をする。 * 積極的に考えさせる授業を実践する。 * 学ぶことの楽しさをわからせる。 * 成就感を持たせる。 * 「確かな力」をつけさせる。 * 教科の共同研究を充実させる。 	<p>生徒理解を深め集団づくりに努める</p> <ul style="list-style-type: none"> * 人権意識を高める。 * 特に、道徳・学活の充実に努める。

(3) 学年目標

1 年

- 一．自分を大切にしよう。
自分自身を見つめよう！長所を伸ばし、短所を克服！
- 一．ひとを大切にしよう。
個性・ちがいを認め合ってつながろう！
- 一．ものを大切にしよう。
ものにも命がある。周りの物に生かされている！

2 年

- 「心を鍛えよう！」
- 自分をコントロールできる強い心
 - 相手を思いやる優しい心
 - 何事にも全力を尽くすたくましい心

3 年

- TRY HARD! . . . for your dream
- ・ 自ら考え、自ら行動しよう。
 - ・ 力を伸ばし、進路に向き合おう。
 - ・ とびきりの笑顔で卒業しよう。

(4) 学習指導の重点 印は、重点目標

各教科指導において、基礎・基本の習得をめざす。
各教科における発展的な内容を個に応じて提示する。
各教科の基本的な知識を総合的な学習と連動させることで知の総合化を図る。

基礎基本的内容と専門的発展的内容との整理精選を図る。
知的好奇心を喚起することで生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
総合的な学習の取り組みにより、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
個に応じた指導の充実をめざす。
2年英語、数学は3年英語、数学は年間を通して小人数授業を展開する。
(23年英語、2年数学は均等2分割と習熟度別指導を、3年数学はすべて習熟度別指導を行う)

(5) 生徒指導の重点

個性を尊重し、一人ひとりを大切にする生徒指導をめざす。
自主的にルールを守りマナーを大切にする生徒を育てる。
自己責任・自己管理能力を高め、問題解決できる生徒を育てる。
自他の安全管理や、健康について積極的に考えることのできる生徒を育てる。

学校生活の基礎単位である学級経営に力を入れる。また、相互の交流を深めていく。
心が安らぐ環境づくりを進め、教師自ら率先してゴミのない学校づくりに努める。
校則の意義を全職員で見直し、生徒のための校則づくりに向けて論議を重ねる。
生徒会活動の活性化を図り、全職員で支援する。
生徒の実態を的確に把握し、一人ひとりに即した具体的な指導に努める。
あらゆる機会に、「生命の尊さ」の認識を深めるよう指導する。
望ましい健康安全生活の習慣化を図るとともに、自らの健康を管理できるよう指導する。
安全教育を計画的に実施し、事故災害の防止を徹底する。
健康的な環境整備に努め、保健管理の指導体制を確立する。

(6) 進路指導の重点

生徒が自らの個性を発見し、現在及び将来の生き方について積極的に考え、生涯にわたって自己実現を図っていくことができる能力や態度を身につけさせる。

自分を生かせる進路を選択させるように指導する。
自分の進路に誇りをもたせるとともに、仲間意識をもち、みんなで支え合い、互いに高め合えるように指導する。
変わりゆく社会情勢に対応するため、学校としてより綿密な情報の収集・検討に努める。

(7) 人権教育指導の重点

自己責任に基づく人権意識の高揚につとめ、他者の人権も尊重する態度を培うと同時に、人としての生き方を求めつつ、現実の社会に根ざした問題に対応できる力を育む指導を推進する。

すべての教育活動を通して、自他共に人権尊重の精神を身につける指導を推進する。
各教科・特別活動および、「総合的な学習」が相互に関連・連動することによって、人権教育の深化・統合を図る。
教職員自身が現状に即応する柔軟性を持ち、生徒の実態や発達段階に即した指導を行なう。
他人の痛みを共有できる心を培い、自尊感情を大切にしたい内面に触れる「心の教育」の実現をめざす。

(8) 学校の支援教育推進のための方針

1 . 目 標

本校は、教育目標を「人間尊重の精神を基盤とし、学習の楽しさと友情の大切さを知り、心理と平和の意味を自覚した実践力のある人間の育成を目指す」とし、生徒目標には、健康で礼儀正しい生徒、進んで学習する生徒、楽しい学校をみんなで作る生徒の3点をうたっている。そして、生徒の個性・能力の伸張をはかり「生きる力」の育成に力を傾注する。

- ・ 本校の支援学級は、自閉症・情緒障がい学級・肢体不自由学級・知的障がい学級の3学級が設置されている。支援教育を推進するに当たり、本校の教育活動の重要課題の一つとしてとらえ、全教職員の共通理解を図りつつ、生徒・保護者に信頼される教育活動を推進する。
- ・ 入級生徒には、各自に応じたカリキュラムを編成し、各自の可能性を伸長するため、教育実践を積み重ねている。特に、自分で身の回りのことができるようになることが第一であり、その中から、やればできる自信や意欲を高めさせる。学習面でも、個々の生徒の実情に合わせた教材をつくり、学力の向上と興味・関心のわく学習内容を構築する。
- ・ 将来、地域で生活することを考え、通常学級との交流を深め、共に育つ視点から教育活動を積極的に取り入れていく。また、通常学級に在籍する配慮を必要とする生徒への支援教育も推進する。
- ・ 支援学級の取り組み内容や行事や生徒たちの頑張っている様子を積極的に啓発し、生徒の理解を促す。

2 . 全校の協力体制

生徒の実態をふまえ、その能力の伸長を図るため、生徒・保護者の考えなどを考慮しながら、支援教育を本校の教育活動の課題の一つとして、全校的な指導体制、支援体制を組みながら教育実践を推進する。

校内体制の充実を図る

- ・ 支援学級教育推進委員会を設置し、支援教育や入級生徒の理解を深めるための、研修・交流に努める。
- ・ 支援学級担当者会議を適宜開催し、在籍生との状況把握や指導方針・指導体制について検討を図る。
- ・ 研究部に支援教育を置き、支援学級担当者・学級担任・教科担任が支援学級を含めた支援教育の進め方についてについて、研究協議を行い、情報交換・指導体制の見直し・確認などを行う。
- ・ 学びの支援員の任務や職務について職員の共通理解を図る。

教育課程の充実を図る

- ・ 入級生徒の実態に即した教育課程を編成し、指導方法の研究・研修を行う。
- ・ 教科の専門性を生かせるよう教科担任制を可能な限り追求する。
- ・ 各クラスへの入り込み学習を取り入れ、共に育つ教育環境を創造する。
- ・ 各学校行事・学年行事に積極的にに関わり、入級生徒の役割などクラスの一員としての自覚が図れる取り組みを行う。

生徒・地域への啓発を図る

- ・ 全校生徒にあらゆる機会に障がい者理解を深めるための啓発を行う。そして思いやりのある豊かな心の育成を図る。
- ・ P T A 活動をとおして支援教育や支援学級入級生徒についての正しい理解を深め、本校の支援教育の充実発展に対しての協力を得る。